

2006年調査以降、再び「あぶり」優位となってそれが維持されている。「あぶり」はHIV感染とは直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションナブルな感覚から、覚せい剤の乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の視点からは決して歓迎される形態とは言えない。しかも、その気軽さ、ファッションナブルさから、性行動との結びつきの促進が憂慮される問題である。

最近1年間での「風俗」での性交渉経験率は、対象データがないため、高い低いを言えないが（表2）、利用の際のコンドームの使用徹底は啓発してゆく必要がある。

「風俗」以外での不特定多数との性交渉（「行きずり」の性交渉）も、最近1年間での「風俗」での性交渉と同じように論ずることができる。

また、国内での外国人との性接触は「風俗」で多く、これもHIV感染の危険因子と考えられる。

最近1年間での海外渡航者（表2）は、数の上では多くはないが、渡航した者の渡航先での薬物使用率、性接触率は高く、注意を要する。

表3は、ICD-10分類にかかわらず、注射の既往、入れ墨の有無による人口統計学的属性、血清検査結果、身体所見を示したものである。

最近1年間で注射既往のある者の平均年齢は約43歳（2013年は約40歳）であり、これまでに注射既往のない者のそれは約33歳（2013年では約33歳）で、以前には注射既往があるが、この1年間ではない者のそれは約44歳（2013年では約42歳）であった。この年齢の順位は、例外的年を除けば、従来通りであった。と同時に、薬物乱用者自体の高齢化が進行している。

また、HCV抗体陽性率は、注射による乱用経験のある二つの群で明らかに高く、HCV感染が注射針の共用に起因することを強く示唆している。

また、注射経験者では「入れ墨」保有率が高く、「指つめ」ありの率も高く、注射経験者には社会的属性の偏りのある者がそれなりにいることを示唆している。

また、「入れ墨」は、皮膚を彫る際の針によってHCV、HIV感染等の感染危険行動になり得る。表3に示したように、「入れ墨」保有者でのHCV

抗体陽性率は約30%（2013年では約17%）と高かった。

表4は、ICD-10分類に関わらず、調査対象を注射既往、入れ墨の有無から、注射行動、性行動についてみたものである。

従来、例外年を除けば、この1年間にも注射の既往がある群で、この1年間での「風俗」での性接触等危険性行動が3群中最も高い傾向にある。同時に、「風俗」以外での不特定多数との性接触率や、国内での外国人との性接触率も、この1年間にも注射の既往がある群で最も高い傾向にあり、この群での性行動上の危険性を示唆している。

以上より、HIV感染陽性者は「脱法ドラッグ」乱用者であるゲイに特徴的であり、彼らの性行動がハイリスク行動であると推定できる。一方、C型肝炎陽性者は覚せい剤乱用者に多く、注射行動という危険行動に加えて、入れ墨保有率も高く、性的危険行動も高く、複合的に危険性が増していると考えられる。

## 研究2 薬物依存症回復支援施設における薬物乱用・依存者調査（回復支援施設群調査）

初回検査者85人（本調査経験者を含めると延べ196人）を調査した。

表5はICD-10分類にもとづく、人口統計学的属性、血清検査結果、身体所見を示している。ここでも、病院群調査同様に、「脱法ドラッグ」患者が急増しており、他剤・多剤群の割合は2012年調査の19.6%、2013年の26.1%から32.9%に増加していた。

性別では、調査施設のほとんどが男性専用施設のため、男：女は約95：5であった。年齢はICD-10分類で、「他剤・多剤」は20～30歳代、「覚せい剤」は30～40歳代に多く、病院群と基本的に同様の結果であった。

未婚者が多いと同時に離婚経験者も多いたとも、病院群と同じであった。

一連の本回復支援施設群調査で初めてHIV抗体陽性者が認められた2013年調査であるが、今回の2014年調査でも1名のHIV感染陽性者を認めた。その3名は表の通りであり、3名ともMSMであるが、乱用薬物は覚せい剤に限らず、病院

これまでの日本人HIV陽性ケース（日本人）

No.	年	年齢	性別	診断	感染経路
1	2013	24	男	「脱法ドラッグ」依存症	MSM間での性行為
2	2013	44	男	覚せい剤依存症	MSM間での性行為
3	2014	39	男	「脱法ドラッグ」依存症	MSM間での性行為

群同様、「脱法ドラッグ」優位であることに注目する必要がある。

また、覚せい剤関連患者でのHCV抗体陽性率は約40.0%（2013年では約38%）であり、病院群の34.4%（表1）より高かった。また、2005年以降、傾向としては上昇にあり（図2）、その原因については後述したい。

覚せい剤関連患者についての、研究1と研究2の両群での比較では、「入れ墨」のある率と「指つめ」のある率は、それぞれ病院群/回復支援施設群は、33/46=0.72（2013年では27/28=0.96）、10/12=0.83（2013年では12/13=0.92）であり、従来通り、回復支援施設群でわずかに高い傾向が伺われた。「根性焼き」のある率は病院群/回復支援施設群で5/32=0.16（2013年では5/28=0.18）であり、回復支援施設群で明らかに高かった。「自傷痕」のある割合は、病院群/回復支援施設群で14/2=7.0（2013年では5/15=0.33）で、病院群で高かった。

表2は、注射行動・性行動等のHIV感染に関する危険行動調査の結果である。

表2に示すように、覚せい剤関連患者の生涯注射経験率は95%と高く、覚せい剤関連患者の76～66%の者に、シリンジ/針の生涯共用経験があった。病院群では生涯注射経験率は79%であり、シリンジ/針の生涯共用経験率は59%であるから、この回復支援施設群での注射による薬物使用歴の高さがわかる（図3）。

しかし、最近1年間に限れば、覚せい剤関連患者での注射経験率は39%、シリンジ/針の生涯共用経験率は12～10%に低下しており、これらは病院群のそれぞれ約51%、約16.5よりも低くなっている（図3、図4）。これは、この群の者たちが、薬物を断ち切るために、回復支援グループの指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの表れであると考えられる。

このことは、この1年間での「あぶり」行動

の経験率（図5）にも現れている。

最近1年間での「風俗」での性交渉経験率は、病院群よりも低い（表2、表6）。

表7は、ICD-10分類にかかわらず、注射の既往、入れ墨の有無による人口統計学的属性、血清検査結果、身体所見を示したものである。

最近1年間で注射既往のある者の平均年齢は約40歳（病院群では約43歳）であり、これまでに注射既往のない者のそれは約33歳（病院群では約33歳）で、以前には注射既往があるが、この1年間ではない者のそれは約42歳（病院群では約44歳）であった。年齢的には病院群よりは少々若いようである。

表8は、ICD-10分類に関わらず、調査対象を注射既往、入れ墨の有無から、注射行動、性行動についてみたものである。

この1年間での「風俗」での性接触等危険性行動は、病院群同様、この1年間にも注射の既往がある群で最も危険度が高い傾向にある。同時に、「風俗」以外での不特定多数との性接触率や、国内での外国人との性接触率も、この1年間にも注射の既往がある群で最も高い傾向にあり、この群での性行動上の危険性を示唆している。

もともと、回復支援施設群は、病院群よりも若くして薬物乱用を初め、精神病理学的リスクも高い者が多い傾向にある。しかし、病院群と比較した上記の結果は、彼らが、薬物を断ち切るために、回復支援グループの指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの表れであると評価できる。

### 研究3 HCV感染に関するハイリスク因子について

本調査研究では、調査の度にHCV感染率が高率である。そこで、覚せい剤に限定せず、病院群と回復支援施設群の双方の初回検査者のデータを併せて、HCV感染に関するハイリスク因子について検討した。

表9は、今回の検査を受ける際に、注射による薬物の使用はHIV感染・C型肝炎の主な感染経路になっていることを知っていたかどうか関する初回検査者の結果である。注射によるHIV感染の危険を知らなかった者の割合は両群で

表9 初回検査者におけるHIV/HCV感染と注射との関係を知らなかった者の割合 (2014)

	HIVについて知らなかった者	C型肝炎について知らなかった者 *: $p<0.05$
IDU非経験者	10.9% (5/46)	26.1% (12/46)
IDU経験者	20.3% (16/79)	8.9% (7/79) *

表10 初回検査者における「あぶり」の理由 (2014)

	IDU非経験者	IDU経験者
好奇心	57.9% (11/19)	57.1% (32/56)
注射は怖いから *	52.6% (10/19)	26.8% (15/56)
気軽にできるから	42.1% (8/19)	42.9% (24/56)
回数を多くできるから	0% (0/19)	1.8% (1/56)
依存になりにくいと思ったから	26.3% (5/19)	8.9% (5/56)
針が手に入らなかったから	10.5% (2/19)	17.9% (10/56)
HIV感染が気になったから	5.3% (1/19)	0% (0/56)
C型肝炎感染が気になったから	10.5% (2/19)	1.8% (1/56)
その他	31.6% (6/19)	16.1% (9/56)

\*:  $p<0.05$

違いはなかった。しかし、C型肝炎については、IDU経験者の方が知っていた者が有意に多いという結果であった。知識があれば、危険行動はとらないと考えがちであるが、「逸脱の世界」では、往々にして、経験者の方が知識を持っているということもあり得る世界である。

また、表10は「あぶり」を行った理由についての回答である。IDU非経験者群とIDU経験者群とでは、「注射は怖いから」という以外、有意差は認められなかった。むしろ、HIV感染、C型肝炎感染が気になって「あぶり」を行ったという者が少ないことに留意する必要がある。

図6は、注射による薬物使用の経験の有無とHCV抗体陽性率との関係を示している。注射による薬物使用の経験がある者でのHCV抗体陽性率が明らかに高かった。

図7は、入れ墨の有無とHCV抗体陽性率との関係を示している。入れ墨のある者でのHCV抗体陽性率は明らかに高かった。

図8は、この1年間での風俗経験とHCV抗体陽性率との関係を示している。この1年間での風俗でのコンドーム未使用者にHCV抗体陽性者が多いことが示唆された。

図9は、年代とHCV抗体陽性率との関係を示している。年代が上がるほどHCV抗体陽性率が高くなることが明らかとなった。

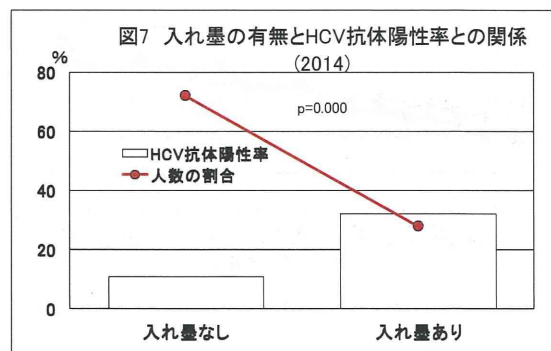
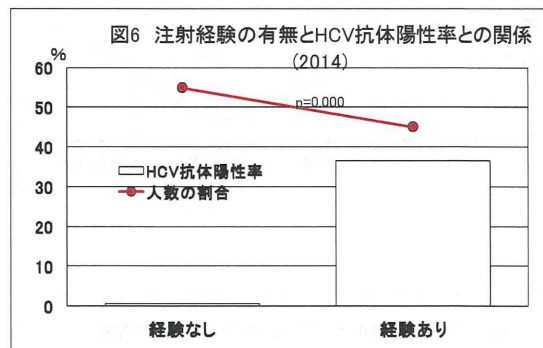
図10は、これまでの注射による薬物使用回数とHCV抗体陽性率との関係を示している。これまでの注射回数というものは信頼性に欠ける面があるが、確かなことは、これまでに注射に

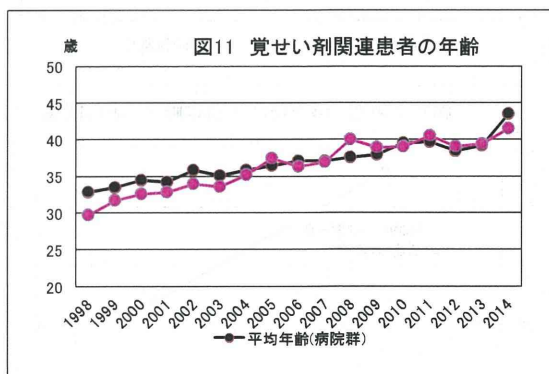
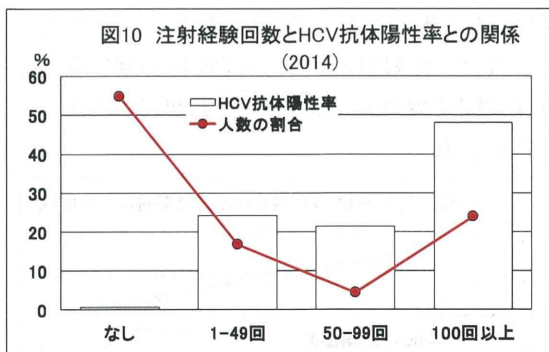
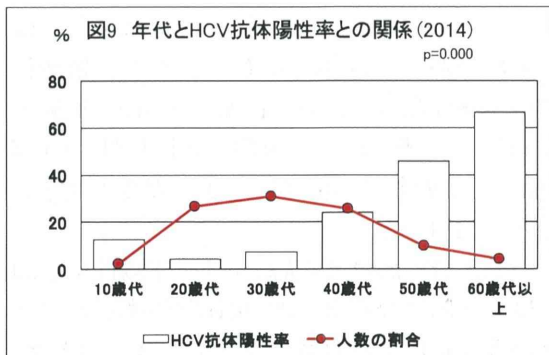
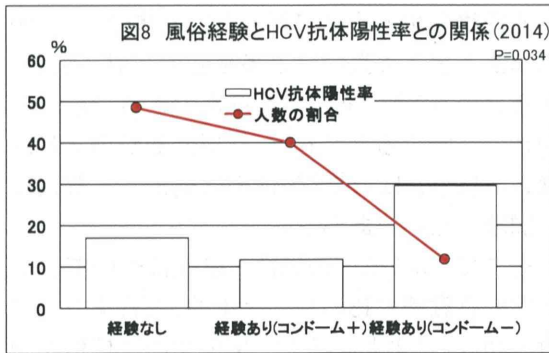
よる薬物乱用の経験が無いという場合と、100回以上と言って良いほど多数回の注射経験があるという2点であろうと推定できる。従って、図10の意味するところは、注射回数が増えれば増えるほど、HCV抗体陽性率は高まると解釈して問題はないであろう。

そこで、HCV抗体の陽性・陰性について、統計学的有意差の認められた年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無、風俗での性接触を独立変数として、判別分析を行ってみた。その結果、固有値が0.463、Wilksのラムダが0.683 ( $p<0.000$ ) であり、モデルとしては良好とはいえないが、正答率は81.6~82.7%で、構造行列の相関係数は、注射の回数:0.870、年齢:0.660、入れ墨:0.388、風俗での性接触:0.067であり、この順に判別に寄与する程度が大きいことが判明した。

一般人口における年齢とHCV抗体陽性率と間には、高齢になるほどHCV抗体陽性率が高まるという年齢による累積効果とでも言うべき現象が存在するようであるが、図9に見る本調査の対象群における年代とHIV抗体陽性率との関係は、その現象の範囲を超える上昇ぶりである。

これは、注射針の共有が同世代の薬物乱用・依存者間で繰り返されてきた結果ではないかと考えられる。





## ■2005年ないしは2008年からのHCV抗体陽性率上昇の原因は何か？

前述したように、回復支援施設群では2005年から、また、病院群では2008年から、HCV抗体陽性率が上昇してきている。しかし、HCV感染に最も関係していると考えられる注射行動は、変動してはならず(図3, 図4)、注射行動との関係は否定できそうである。また、入れ墨保有者や風俗経験者が年々増加しているということもない。

どうやら、答えは図11にありそうである。図11は一連の本調査での覚せい剤関連患者の平均年齢の推移を見たものである。1998年調査では、覚せい剤関連患者の平均年齢は病院群で32.9歳であったのが、2014年には43.5歳であり、回復支援施設群では、同じく29.7歳から41.5歳まで上昇しているのである。

覚せい剤乱用者の年齢が、高齢化してきており、その結果がHCV抗体陽性率の上昇として現れていると考えるのが自然のようである。この覚せい剤乱用者の高齢化の背景には、今日の日本の薬物乱用の特徴として当研究者らが指摘する違法薬物から「脱法ドラッグ」へのシフト、すなわち「捕まる行為から捕まらない行為」への流れ<sup>1)</sup>があることは確かである。

## E. 結論

① 薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。

② 研究は「1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」(病院群調査)、「2. 薬物依存症回復支援施設における薬物乱用・依存者調査」(回復支援施設群調査)の2部門調査から成っている。各研究においては、対象者の同意の下で、調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査、ないしは診療録からの転記調査を実施した。いずれの調査も、2014年1月1日～2014年12月31日に入院(一部通院)、入所(一部通所)した者を対象とした。

③ 病院群では5施設の初回対象患者277人(本調査経験者を含めると延べ352人を調べた。)を分析した。5施設中の4病院で、わが国の覚せい剤関連精神疾患患者全体の約11% (2010年6月30日現在の全国精神病院の病名別在院患者数を元にして)は捕捉できると推定している。回復支援施設群は5施設の初回検査者85人(検査経験者を含めると196人)を分析した。

④ 乱用・依存薬物では、「捕まる行為から捕まらない行為」への流れ<sup>1)</sup>が顕著であり、その結果、「脱法ドラッグ」関連患者が激増し、分類状は「他剤・多剤」関連患者(F19)が激増し、これまで数の上では常に最多だったF15(覚せい剤)関連患者数を大きく上回ったことが、2013年、2014年調査の最大の特徴である。同時に、2部門での調査で、HIV抗体陽性者が2012年から増えているのは、ゲイ・コミュニティーないしはHIV感染治療施設と薬物関連治療施設間での連携が増加した結果である。

#### 【病院群調査】

⑤ 病院群で、HIV感染者3名を認めたが、3名はMSMであった。ICD-10による薬物分類では、1名には覚せい剤依存症があるが、3名とも「脱法ドラッグ」関連障害であった。「脱法ドラッグ」は、その拡がりの爆発性と共に、性行為を通じてのHIV感染のハイリスクにもなり得るポテンシャルを秘めていると考えられる。⑥ 病院群での覚せい剤関連患者では、HCV抗体陽性率が34.4%(2013年は18.2%。以下、括弧内は2013年の結果である。)と高かった。このHCV抗体陽性率は経年的には確実に減少傾向を示していたが、2008年以降はやや増加傾向を伺わせる。注射行動等の感染ハイリスク行動にさほどの変化は見られないにも関わらず、HCV抗体陽性率が増加傾向にある原因としては、覚せい剤乱用者の高齢化(平均年齢が1998年には32.9歳であったものが、2014年には43.5歳に上昇している。)が推測された。⑦ 病院群での覚せい剤関連患者のハイリスク行動としては、78.5%

(71.8%)の者に、これまでに注射による薬物使用の既往(以下、注射の既往)があり、この1年間でも約51%(51%)の者に注射の既往があった。また、59%(約51%)の者にシリンジ及び針の生涯共用経験があり、最近1年間に限って

も、約17%(約17%)の者にシリンジ及び針の共用経験があった。経年的には注射の1年経験率、注射針の1年共用経験率は低下していたが、その背景には「あぶり」の普及があると推測される。

#### 【回復支援施設群調査】

⑧ 一連の本回復支援施設群調査で、初めてHIV抗体陽性者が認められたのは、2013年調査での2名であるが、今回の2014年調査でも1名のHIV感染陽性者を認めた。この3名はいずれも「脱法ドラッグ」依存患者のMSMであった。病院群同様、「脱法ドラッグ」は、性行為を通じてのHIV感染のハイリスクにもなり得るポテンシャルを秘めていると考えられる。

⑨ 回復支援施設群の覚せい剤乱用・依存者でのHCV抗体陽性率は約40.0%(2013年では約38%)であり、病院群の34.4%より高かった。このHCV抗体陽性率は、長年減少傾向にあったが、2005年以降は上昇傾向に転じている。その原因としては、病院群同様に覚せい剤乱用・依存者の高齢化(平均年齢が1998年には29.7歳であったものが、2014年には41.5歳に上昇している。)が推測された。

⑩ 覚せい剤関連患者の生涯注射経験率は95%と高く、覚せい剤関連患者の76~66%の者に、シリンジ/針の生涯共用経験があった。この値は病院群での値より高いが、最近1年間に限れば、覚せい剤関連患者での注射経験率は39%、シリンジ/針の生涯共用経験率は12~10%に低下しており、これらは病院群の値よりは低く、この群の者たちが、薬物を断ち切るために、回復支援グループの指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの表れであると考えられる。

#### 【両群合わせての結果】

⑪ 注射によるHIV感染の危険を知らなかった者の割合は両群で違いはなかった。しかし、C型肝炎については、IDU経験者の方が知っていた者が有意に多いという結果であった。知識があれば、危険行動はとらないと考えがちであるが、「逸脱の世界」では、往々にして、経験者の方が知識を持っているということもあり得る世界である。また、HIV感染、C型肝炎感染が気になって「あぶり」を行った者は極めて少な

いことが再確認された。この「あぶり」は、HIV感染と直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションブルな感覚から覚せい剤乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の視点からは決して歓迎されるものではない。同時に、その気軽さ及びファッションブルさから、性行動と結びつきやすい傾向が伺え、今後、薬物使用と性行動との関係に関する対応が必要である。

⑫ 病院群、非病院群に関係なく、HCV抗体の陽性・陰性について、年齢、これまでの注射の回数、入れ墨の有無、風俗での性行動を独立変数として、判別分析を行ってみた。その結果、固有値が0.463、Wilksのラムダが0.683

( $p < 0.000$ ) であり、モデルとしては良好とはいえないが、正答率は81.6～82.7%で、構造行列の相関係数は、注射の回数：0.870、年齢：0.660、入れ墨：0.388、風俗での性接触：0.067であり、この順に判別に寄与する程度が大きいことが確認された。

⑬ 薬物乱用・依存者のHIV感染は、注射行為のみならず、性行為による感染の可能性と重複

していることが多い。「脱法ドラッグ」はそのことを如実に示している。今後も、その両面からHIV感染の実態を把握してゆく必要がある。

#### 【参考文献】

- 1) 和田 清、尾崎 茂、近藤あゆみ：薬物乱用・依存の今日的状況と政策的課題。日本アルコール・薬物医学会雑誌(43)：120-131, 2008.

#### F. 発表論文

なし

#### G. 学会発表

- 1) 和田 清：薬物依存症者におけるC型肝炎・HIV感染の実態。シンポジウム7 AS7 薬物乱用とHIV感染—わが国の現状と対応—。平成26年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会。パシフィコ横浜。2014.10.4.

#### H. 知的所有権の取得状況

なし

表1 【医療機関における薬物依存症者】の属性・血清検査・身体所見(%)

	F11	F12	F13	F14	F15	F16	F18	F19	全体
	アヘン	大麻	鎮静睡眠薬	コカイン	覚せい剤	幻覚剤	揮発性溶剤	他剤・多剤	
	1[ 0.4]	4[ 1.4]	10[ 3.6]	1[ 0.4]	93[33.6]	1[ 0.4]	4[ 1.4]	163[58.8]	277[ 100]
性別									
男		3(75.0)	6(60.0)	1(100)	62(66.7)	1(100)	4(100)	134(82.2)	211(76.2)
女	1(100)	1(25.0)	4(40.0)		31(33.3)			29(17.8)	66(23.8)
年齢									
10歳代					1( 1.1)		1(25.0)	4( 2.5)	6( 2.2)
20歳代		2(50.0)		1(100)	8( 8.6)	1(100)		67(41.1)	79(28.5)
30歳代		1(25.0)	5(50.0)		23(24.7)			53(32.5)	82(29.6)
40歳代		1(25.0)	2(20.0)		35(37.6)		2(50.0)	32(19.6)	72(26.0)
50歳代			2(20.0)		20(21.5)			5( 3.1)	27( 9.7)
60歳代	1( 100)		1(10.0)		6( 6.5)		1(25.0)	2( 1.2)	11( 4.0)
平均年齢±SD	78	29.8	44.7	22	43.5	26	41.8	32.7	36.9
		±9.5	±13.1		±9.9		±19.0	±9.2	±11.4
現在の配偶歴(%)		n=3			n=79		n=3	n=145	n=242
未婚		66.7	30.0	100.0	45.6	100.0	100.0	40.7	43.2
既婚		0.0	50.0		17.7			47.6	36.2
離婚		33.3	10.0		35.4			11.7	19.3
死別	100	0.0	10.0		1.3			0	1.2
離婚歴あり	0	66.7	33.3(3/9)	0	43.0	0	0	37.2	38.4
血清検査(%)									
HIV抗体陽性	0	0	0	0	0( 0/89)	0	0	1.9(3/157)	1.1(3/267)
HCV抗体陽性	0	0	0	0	34.4(31/90)	0	0	5.7(9/157)	14.9(40/268)
HBs抗原陽性	0	0	0	0	0( 0/91)	0	0	0( 0/157)	0( 0/269)
HBs抗体陽性	0	0( 0/3)	0	0	3.4( 2/59)	0	0( 0/3)	0( 0/126)	1.0( 2/204)
HBc抗体陽性	-	0( 0/1)	0( 0/8)	-	0( 0/38)	-	-	0( 0/ 29)	0( 0/ 76)
TP抗体陽性	0	0	0	0	2.2( 2/90)	0	0	0.6( 1/157)	1.1( 3/268)
性病既往(自己申告)(%)									
毛ジラミ	0	0( 0/3)	0	0	31.3(25/80)	0	33.3(1/3)	14.2(21/148)	19.0(47/247)
淋病	0	33.3(1/3)	0	0	31.3(25/80)	0	33.3(1/3)	11.5(17/148)	17.4(43/247)
クラミジア	0	0( 0/3)	0	0	10.3( 8/74)	0	0(0/3)	3.4( 5/146)	5.4(13/239)
梅毒	0	0(0/3)	0	0	18.8(15/80)	0	0(0/3)	9.5(14/148)	11.7(29/247)
身体所見(%)									
輸血の既往あり	0	0(0/3)	0	0	3.9( 3/77)	0	0(0/3)	1.4( 2/144)	2.1( 5/240)
歯の著明不良あり	0	0(0/3)	0	0	17.5(14/80)	0	66.7(2/3)	8.1(12/148)	11.3(28/247)
注射痕あり	0	0(0/3)	0	0	20.0(16/80)	0	0(0/3)	2.0( 3/148)	7.7(19/247)
入れ墨あり	0	33.3(1/3)	0	100	32.5(26/80)	0	33.3(1/3)	23.0(34/148)	25.5(63/247)
指つめあり	0	0(0/3)	0	0	10.0( 8/80)	0	0(0/3)	0.7( 1/148)	3.6( 9/247)
根性焼きあり	0	0(0/3)	0	0	5.0( 4/80)	0	0(0/3)	9.5(14/148)	7.3(18/247)
自傷痕あり	0	33.3(1/3)	10.0(1/10)	100	13.8(11/80)	0	0(0/3)	14.9(22/148)	14.6(36/247)

表2【医療機関における薬物依存症者】の注射行動・性行動(%)

	F11	F12	F13	F14	F15	F16	F18	F19	全体
	アヘン類	大麻	鎮静睡眠薬	コカイン	覚せい剤	幻覚剤	揮発性溶剤	他剤・多剤	
	1[ 0.4]	4[ 1.4]	10[ 3.6]	1[ 0.4]	93[33.6]	1[ 0.4]	4[ 1.4]	163[58.8]	277[ 100]
<b>これまでに(%)</b>									
注射経験あり	100	0(0/3)	0	0	78.5(62/79)	0	33.3(1/3)	19.3(28/145)	37.9(92/243)
シリンジ 共用経験+	0	0(0/3)	0	0	59.0(46/78)	0	33.3(1/3)	11.8(17/144)	26.6(64/241)
針の共用経験+	0	0(0/3)	0	0	59.0(46/78)	0	33.3(1/3)	11.8(17/144)	26.6(64/241)
注射回数									
なし		100(3/3)	100	100	21.5(17/79)	100	66.7(2/3)	80.7(117/144)	62.1(151/243)
1～49回	100				27.8(22/79)		33.3(1/3)	11.7(17/145)	16.9( 41/243)
50～99回					3.8( 3/79)			4.1( 6/145)	3.7( 9/243)
100回以上					46.8(37/79)			3.4( 5/145)	17.3( 42/243)
<b>最近1年間で(%)</b>									
注射経験あり	100	0(0/3)	0	0	50.6(40/79)	0	0(0/3)	15.2(22/145)	25.9(63/243)
シリンジ 共用経験+	0	0(0/3)	0	0	16.5(13/79)	0	0(0/3)	8.3(12/145)	10.3(25/243)
針の共用経験+	0	0(0/3)	0	0	16.5(13/79)	0	0(0/3)	7.6(11/145)	9.9(24/243)
注射回数									
なし		100(3/3)	100	100	50.0(38/76)	100	100(3/3)	87.2(123/141)	75.8(179/236)
1～49回	100				44.7(34/76)			12.8( 22.5( 53/236)	
50～99回					2.6( 2/76)			0( 0/141)	0.8( 2/236)
100回以上					2.6( 2/76)			0( 0/141)	0.8( 2/236)
<b>これまでに「あぶり」の経験あり(%)</b>									
	0	0(0/3)	0	0	87.5(70/80)	100	33.3(1/3)	34.7(51/147)	50.0(123/246)
<b>この1年間で「あぶり」の経験あり(%)</b>									
	0	0(0/3)	0	0	57.5(46/80)	100	0(0/3)	27.9(41/147)	35.8(88/246)
<b>この1年間ではどちらが多いか?(%)</b>									
注射	100	0(0/3)	0	0	35.4(28/79)	0	0(0/3)	4.9( 7/143)	14.9( 36/241)
「あぶり」	0	0(0/3)	0	0	41.8(33/79)	100	0(0/3)	17.5(25/143)	24.5( 59/241)
同程度	0	0(0/3)	0	0	6.3( 5/79)	0	0(0/3)	4.9( 7/143)	5.4( 13/241)
どちらもなし	0	100(3/3)	100	100	16.5(13/79)	0	100(3/3)	72.7(104/143)	55.2(133/241)
<b>「風俗」での性接触あり(最近1年間)(%)</b>									
なし	100	66.7(2/3)	80.0	100	43.6(34/78)	100	50.0(1/2)	36.8(53/144)	42.1(101/240)
あり(常にコンドーム+)	0	33.3(1/3)	10.0	0	33.3(26/78)	0	50.0(1/2)	57.6(83/144)	46.7(112/240)
あり(コンドーム-のことあり)	0	0	10.0	0	23.1(18/78)	0	0(0/2)	5.6( 8/144)	11.3( 27/240)
<b>「風俗」以外での不特定多数と性接触あり(最近1年間)(%)</b>									
なし	100	66.7(2/3)	80.0	100	66.2(51/77)	100	66.7(2/3)	74.6(106/142)	72.3(172/238)
あり(常にコンドーム+)	0	33.3(1/3)	10.0	0	6.5( 5/77)	0	0(0/3)	14.8(21/142)	11.8( 28/238)
あり(コンドーム-のことあり)	0	0(0/3)	10.0	0	27.3(21/77)	0	33.3(1/3)	10.6(15/142)	16.0( 38/238)
<b>国内で外国人との性接触あり(最近1年間)(%)</b>									
なし	100	100(3/3)	90.0(9/10)	100	83.1(64/77)	100	100(3/3)	87.3(124/142)	88.6(206/238)
あり(常にコンドーム+)	0	0	10.0(1/10)	0	14.3(11/77)	0	0(0/3)	9.9( 10.9( 26/238)	
あり(コンドーム-のことあり)	0	0	0	0	2.6( 2/77)	0	0(0/3)	2.8( 2.5( 6/238)	
<b>性接触ありの場合の相手</b>									
「風俗」で	-	-	0	-	86.4(11/13)	-	-	66.7(12/18)	71.9(23/32)
「風俗」以外で	-	-	100	-	0	-	-	11.1(2/18)	9.4( 3/32)
両方で	-	-	0	-	15.4(2/13)	-	-	22.2(4/18)	18.8( 6/32)
<b>海外渡航歴のある者(最近1年間)(%)</b>									
	0	0(0/3)	20.0	0	5.1(4/79)	0	0(0/3)	7.6(11/144)	7.0(17/242)
上記のうち									
渡航先での薬物使用	-	-	100	-	50.0(2/4)	-	-	72.7( 8/11)	70.6(12/17)
渡航先での性接触	-	-	0	-	100(4/4)	-	-	72.7(8/11)	70.6(12/17)



**表3 【医療機関における薬物依存症者】の注射経験、入れ墨と属性・血清検査・身体所見**

		これまで		これまで注射経験あり		入れ墨	
		注射経験なし	1年間にはなし	1年間にもあり	なし	あり	
		151[62.1]	28[11.5]	64[26.3]	184[74.5]	63[25.5]	
性別							
	男	119(78.8)	21(45.0)	38(59.4)	136(73.9)	46(73.0)	
	女	32(21.2)	7(25.0)	26(40.6)	48(26.1)	17(27.0)	
年齢							
	10歳代	4[80.0]	1[20.0]	0[ 0]	4[80.0]	1[20.0]	
	20歳代	58[79.5]	2[ 3.1]	7[10.8]	45[69.2]	20[30.8]	
	30歳代	52[70.3]	7[ 9.5]	15[20.3]	65[84.4]	12[15.6]	
	40歳代	31[47.0]	11[16.7]	24[36.4]	52[78.8]	14[21.2]	
	50歳代	6[25.0]	2[ 8.3]	16[66.7]	16[64.0]	9[36.0]	
	60歳以上	2[22.2]	5[55.6]	2[22.2]	2[22.2]	7[77.8]	
	平均年齢±SD	33.4±9.6	44.1±13.3	42.8±9.8	36.6±10.1	39.0±13.8	
現在の配偶歴					n=180		
	未婚	40.4	60.7	42.2	37.2	60.3	
	既婚	50.3	7.1	15.6	43.3	15.9	
	離婚	8.6	32.1	39.1	17.8	23.8	
	死別	0.7	0.0	3.1	1.7	0.0	
	離婚歴あり	37.3(56/150)	39.3	40.6	39.1	36.5	
血清検査(%)							
	HIV抗体陽性率	1.4(2/148)	0(0/27)	1.6(1/62)	1.7( 3/176)	0( 0/61)	
	HCV抗体陽性率	0.7(1/148)	51.9(14/27)	28.6(18/63)	9.0(16/177)	27.9(17/61)	
	HBs抗原陽性率	0(0/148)	0(0/28)	0( 0/63)	0( 0/177)	0( 0/62)	
	HBs抗体陽性率	0(0/135)	0( 0/19)	4.0( 2/50)	0( 0/150)	3.7( 2/54)	
	HBc抗体陽性率	0(0/ 39)	0( 0/12)	0( 0/25)	0( 3/53)	0( 0/23)	
	TPHA陽性率	0.7(1/148)	0( 0/27)	3.2( 2/63)	1.7( 3/177)	0( 0/61)	
性病既往(自己申告)(%)							
	モジラミ	10.6	28.6	35.9	14.1	33.3	
	淋病	4.6	25.0	45.2	10.3	38.1	
	クラミジア	2.6	10.7	5.4	9.2	0	
	梅毒	6.6	14.3	23.4	12.0	11.1	
身体所見(%)							
	輸血の既往あり	2.0( 3/150)	3.7(1/27)	1.6(1/63)	2.2( 4/178)	1.6( 1/62)	
	歯の著明不良あり	7.3	35.7	10.9	10.7(19/177)	14.3(9/63)	
	注射痕あり	0	28.6	17.2	7.9(14/177)	7.9(5/63)	
	入れ墨あり	17.9	42.9	37.5			
	指つめあり	0	14.3	7.8	0( 0/177)	14.3(9/63)	
	根性焼きあり	6.6	7.1	9.4	6.2(11/177)	11.1( 7/63)	
	自傷痕あり	13.9	3.6	21.9	16.4(29/177)	11.1( 7/63)	

表4【医療機関における薬物依存症者】の注射経験、入れ墨と注射行動・性行動

	これまで			入れ墨	
	注射経験なし 151[62.1]	1年間にはなし 28[11.5]	1年間にもあり 64[26.3]	なし 184[74.5]	あり 63[25.5]
これまでに (%)					
注射経験あり	0	100	100	31.1 (56/180)	57.1
シリンジ共用経験あり	0	80.8 (21/26)	67.2	19.7 (35/178)	46.0 (29/63)
針の共用経験あり	0	80.8 (21/26)	67.2	19.7 (35/178)	46.0 (29/63)
注射経験の注射回数					
なし	100	0	0	68.9 (124/180)	42.9
1~49回	0	53.6	40.6	16.1 ( 29/180)	19.0
50~99回	0	3.6	12.5	3.3 ( 6/180)	4.8
100回以上	0	42.9	46.9	11.7 (21/180)	33.3
最近1年間で (%)					
注射経験あり	0	0	98.4	21.7 (39/180)	38.1
シリンジ共用経験	0	0	39.1	7.2 (13/180)	19.0
針の共用経験	0	0	38.1 (24/63)	6.7 (12/179)	19.0
注射経験の注射回数					
なし	100	100	0 ( 0/57)	79.1 (140/177)	66.1 (39/59)
1~49回	0	0	93.0 (53/57)	19.2 ( 34/177)	32.2 (19/59)
50~99回	0	0	3.5 ( 2/57)	0.6 ( 1/177)	1.7 ( 1/59)
100回以上	0	0	3.5 ( 2/57)	1.1 ( 2/177)	0 ( 0/59)
これまでに「あぶり」の経験あり (%)	25.8	82.1	90.6	47.0 (86/183)	58.7
この1年間で「あぶり」の経験あり (%)	21.9	35.7	65.6	35.0 (64/183)	38.1
この1年間でどちらが多いか?					
注射	0 ( 0/150)	0	57.1 (36/63)	10.1 (18/178)	28.6
「あぶり」	21.3 ( 32/150)	39.3	25.4 (16/63)	26.4 (47/178)	19.0
同程度	0 ( 0/150)	0	17.5 (11/63)	4.5 ( 8/178)	7.9
どちらもなし	78.7 (118/150)	60.7	0 ( 0/63)	59.0 (105/178)	44.4
「風俗」での性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	43.6 (65/149)	48.1 (13/27)	35.9	39.7 (71/179)	49.2 (30/61)
あり (常にコンドーム+)	55.0 (82/149)	40.7 (11/27)	29.7	50.3 (90/179)	36.1 (22/61)
あり (コンドーム-のことあり)	1.3 ( 2/149)	11.1 ( 3/27)	34.4	10.1 (18/179)	14.8 ( 9/61)
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	82.0 (123/150)	69.2 (18/26)	50.0	76.1 (134/176)	61.3 (38/62)
あり (常にコンドーム+)	15.3 ( 23/150)	7.7 ( 2/26)	4.8	11.9 ( 21/176)	11.3 ( 7/62)
あり (コンドーム-のことあり)	2.7 ( 4/150)	23.1 ( 6/26)	45.2	11.9 ( 21/176)	27.4 (17/62)
国内で外国人との性接触あり (最近1年間) (%)					
なし	91.3 (137/150)	92.6 (25/27)	72.1 (44/61)	88.6 (156/176)	80.6 (50/62)
あり (常にコンドーム+)	7.3 ( 11/150)	7.4 ( 2/27)	21.3 (13/61)	10.2 ( 18/176)	12.9 ( 8/62)
あり (コンドーム-のことあり)	1.3 ( 2/150)	0 ( 0/27)	6.6 ( 4/61)	1.1 ( 2/176)	6.5 ( 4/62)
性接触ありの場合の相手					
「風俗」で	60.0 ( 6/10)	0 ( 0/2)	82.4 ( 14/17)	76.5 (13/17)	58.3 ( 7/12)
「風俗」以外で	30.0 ( 3/10)	0 ( 0/2)	0 ( 0/17)	11.8 ( 2/17)	8.3 ( 1/12)
「風俗」と「風俗」以外の両方	10.0 ( 1/10)	100 ( 0/2)	17.6 ( 3/17)	11.8 ( 2/17)	33.3 ( 4/12)
外渡航歴のある者 (最近1年間)	6.7 (10/150)	14.3	4.7	6.1 (11/180)	9.7 ( 6/62)
上記のうち					
渡航先で薬物使用のあった者	60.0 ( 6/10)	100 ( 4/4)	66.7 ( 2/3)	72.7 ( 8/11)	66.7 ( 4/6)
渡航先で性交渉のあった者	50.0 ( 5/10)	100 ( 4/4)	100 ( 3/3)	54.6 ( 6/11)	100 ( 6/6)

表5【薬物依存症回復支援施設入所者】の属性・血清検査・身体所見(%)

		主診断 (ICD-10)							
		F10	F12	F13	F15	F16	F17	F19	全体
		アルコール	大麻	鎮静睡眠剤	覚せい剤等	催幻覚剤	揮発性溶	他剤・多剤	
		6 [ 7.1]	5 [ 5.9]	2 [ 2.4]	41 [48.2]	1 [ 1.2]	2 [ 2.4]	28 [32.9]	85 [100]
性別									
	男	6 (100)	5 (100)	1 (50.0)	39 (95.1)	1 (100)	1 (50.0)	28 (100)	81 (95.3)
	女			1 (50.0)	2 ( 4.9)		1 (50.0)		4 ( 4.7)
年齢									
	10歳代							2 ( 7.1)	2 ( 2.4)
	20歳代		1 (20.0)		6 (14.6)		1 (50.0)	9 (32.1)	17 (20.0)
	30歳代	2 (33.3)	1 (20.0)	1 (50.0)	13 (31.7)	1 (100)		13 (46.4)	31 (36.5)
	40歳代	2 (33.3)	3 (60.0)	1 (50.0)	13 (31.7)			3 (10.7)	22 (25.9)
	50歳代	1 (16.7)			6 (14.6)		1 (50.0)	1 ( 3.6)	9 (10.6)
	60歳代	1 (16.7)			3 ( 7.3)				4 ( 4.7)
	平均年齢±	37.5	36.8	38.5	41.5	31.0	43.0	31.8	38.3
	SD	±11.6	±9.0	±6.4	±10.7		±19.8	±8.2	±10.9
現在の配偶歴 (%)									
	未婚	33.3	80.0	0	53.7	100	50.0	78.6	61.2
	既婚	0	0	100	9.8	0	50.0	3.6	9.4
	離婚	66.7	20.0	0	34.1	0	0	17.9	28.2
	死別	0	0	0	2.4	0	0	0	1.2
	離婚歴あり	66.7	40.0	0	46.3	0	0	25.0	37.6
血清検査 (%)									
	HIV抗体陽性	0	0	0	0 (0/40)	0	0	3.6	1.2 (1/84)
	HCV抗体陽性	16.7	0	0	40.0 (16/40)	0	50	10.7	25.0 (21/84)
	HBs抗原陽性	0	0	0	0 (0/40)	0	0.0	3.6	1.2 (1/84)
	HBs抗体陽性	0	0	0	7.7 ( 3/39)	0	0.0	0	3.6 (3/83)
	HBc抗体陽性	16.7	0	0	7.7 (3/39)	0	0	3.6	6.0 (5/83)
	TPHA陽性率	0	0	0	0 ( 0/40)	0	0	0	0 (0/84)
性病既往 (自己申告)									
	毛ジラミ	0	0	0	17.1	100	50.0	10.7	14.1
	淋病	0	20.0	0	19.5	0	50.0	10.7	15.3
	クラミジア	0	0	0	7.3	0	50.0	7.1	7.1
	梅毒	0	0	0	2.4	0	0	0	1.2
身体所見 (%)									
	輸血の既往あり	16.7	0	50.0	15.8 (6/38)	0	0	10.7	13.4 (11/82)
	歯の著明不良あり	66.7	20.0	0	61.0	100	0	39.3	49.4
	注射痕あり	0	0	0	46.3	0	0	10.7	25.9
	入れ墨あり	16.7	20.0	0	46.3	0	50	28.6	35.3
	指つめあり	0	0	0	12.2	0	0	3.6	7.1
	根性焼きあり	33.3	0	0	31.7	100	50.0	28.6	29.4
	自傷痕あり	33.3	20.0	50.0	2.4	0	50.0	14.3	11.8

表6【医療機関を受診していない薬物依存者】の注射行動・性行動(%)

	ICD-10							全体
	F10	F12	F13	F15	F16	F17	F19	
	アルコール	大麻	鎮静睡眠剤	覚せい剤等	催幻覚剤	揮発性溶剤	他剤・多剤	
	6[ 7.1]	5[ 5.9]	2[ 2.4]	41[48.2]	1[ 1.2]	2[ 2.4]	28[32.9]	85 [100]
<u>これまでに(%)</u>								
注射経験あり	66.7	40.0	0	95.1	0	50.0	35.7	65.9
シリンジ 共用経験	16.7	20.0	0	75.6	0	50.0	22.2(6/27)	47.6(40/84)
針の共用経験+	16.7	20.0	0	65.9	0	50.0	15.4(4/26)	41.0(34/83)
注射回数								
なし	33.3	60.0	100.0	4.9	100	50.0	64.3	34.1
1~49回	33.3	20.0	0.0	14.6		0	17.9	16.5
50~99回	16.7	0.0	0.0	7.3		0	3.6	5.9
100回以上	16.7	20.0	0.0	73.2		50.0	14.3	43.5
<u>最近1年間で(%)</u>								
注射経験あり	16.7	0	0	39.0	0	0	7.1	22.4
シリンジ 共用経験	16.7	0	0	12.2	0	0	0.0	7.1(6/85)
針の共用経験+	16.7	0	0	9.8	0	0	0.0	5.9(5/85)
注射回数								
なし	83.3	100.0	100.0	61.0	100	100	92.9	77.6
1~49回	0	0	0	31.7	0	0	7	17.6
50~99回	0	0	0	2	0	0	0	1.2
100回以上	16.7	0	0	4.9	0	0	0	3.5
<u>これまでに「あぶり」の経験あり(%)</u>								
	16.7	80.0	0	73.2	0	0	46.4	56.5
<u>この1年間で「あぶり」の経験あり(%)</u>								
	0	0	0	29.3	0	0	14.8	19.0
<u>この1年間でどちらが多いか?(%)</u>								
注射	16.7	0	0	29.3	0	0	3.6	16.5
「あぶり」	0	0	0	17.1	0	0	17.9	14.1
同程度	0	0	0	2.4	0	0	0.0	1.2
どちらもなし	83.3	100	100	51.2	100	100	78.6	68.2
<u>「風俗」での性接触あり(最近1年間)</u>								
なし	50.0	80.0	50.0	75.0(30/40)	0	100	67.9	70.2(59/40)
あり(常にコンドーム+)	33.3	0	50.0	17.5(7/40)	100	0	14.3	17.9(15/40)
あり(コンドーム-のこともあり)	16.7	20.0	0	7.5(3/40)	0	0	17.9	11.9(10/40)
<u>「風俗」以外での不特定多数と性接触あり(最近1年間)(%)</u>								
							n=17	n=66
なし	66.7	80.0	100.0	80.0(32/40)	0	100	67.9	75.0(63/84)
あり(常にコンドーム+)	16.7	20.0	0	10.0(4/40)	100	0	3.6	9.5(8/40)
あり(コンドーム-のこともあり)	16.7	0	0	10.0(4/40)	0	0	28.6	15.5(13/40)
<u>国内で外国人との性接触あり(最近1年間)(%)</u>								
なし	83.3	100.0	100.0	92.7	100	100.0	92.9	92.9
あり(常にコンドーム+)	16.7	0	0	7.3	0	0	0	4.7
あり(コンドーム-のこともあり)	0	0	0	0	0	0	7.1	2.4
<u>性接触ありの場合の相手</u>								
「風俗」で	0			66.7			0	33.3
「風俗」以外で	100			33.3			0	33.3
両方で	0			0.0			100	33.3
<u>海外渡航歴のある者(最近1年間)(%)</u>								
	0	0	0	2.4	0	0	3.6	2.4
<u>上記のうち 海外で薬物使用のあった者</u>								
				0			0	0
<u>海外で性交渉のあった者</u>								
				100			100	100

**表7【薬物依存症回復支援施設入所者】の注射経験、入れ墨と属性・血清検査・身体所見**

		これまで	これまでに注射経験あり		入れ墨	
		に 注射経験なし	1年間にはなし	1年間にもあり	なし	あり
		29[34.1]	37[43.5]	19[22.4]	55[64.7]	30[35.3]
性別	男	28[34.6]	35[43.2]	18[22.2]	53[65.4]	28[34.6]
	女	1[25.0]	2[50.0]	1[25.0]	2[50.0]	2[50.0]
年齢	10歳代	2[100]	0[0]	0[0]	0[0]	2[100]
	20歳代	9[52.9]	5[29.4]	3[17.6]	11[64.7]	6[35.3]
	30歳代	12[38.7]	11[35.5]	8[25.8]	23[74.2]	8[25.8]
	40歳代	5[22.7]	12[54.5]	5[22.7]	13[59.1]	9[40.9]
	50歳代	1[11.1]	6[66.7]	2[22.2]	5[55.6]	4[44.4]
	60歳以上	0[0]	3[75.0]	1[25.0]	3[75.0]	1[25.0]
	平均年齢±SD	32.5±8.9	42.1±10.9	39.7±10.5	38.5±10.9	37.9±11.2
	<b>現在の配偶歴</b>					
	未婚	79.3	48.6	57.9	69.1	46.7
	既婚	10.3	13.5	0.0	10.9	6.7
	離婚	10.3	37.8	36.8	18.2	46.7
	死別	0.0	0.0	5.3	1.8	0.0
	離婚歴あり	10.3	54.1	47.4	29.1	53.3
<b>血清検査(%)</b>						
	HIV抗体陽性率	3.4	0.0	0(0/18)	1.8	0(0/29)
	HCV抗体陽性率	0.0	43.2	27.8(5/18)	16.4	41.4(12/29)
	HBs抗原陽性率	3.4	0.0	0(0/18)	1.8	0(0/29)
	HBs抗体陽性率	0.0	2.7	11.8(2/18)	3.6	3.6(1/29)
	HBc抗体陽性率	3.4	10.8	0(0/17)	7.3	3.6(1/28)
	TP抗体陽性率	0.0	0.0	0(0/18)	0.0	0(1/29)
<b>性病既往(自己申告)(%)</b>						
	モジラミ	13.8	13.5	15.8	12.7	16.7
	淋病	3.4	24.3	15.8	10.9	23.3
	クラミジア	3.4	8.1	10.5	5.5	10.0
	梅毒	0.0	2.7	0.0	0.0	3.3
<b>身体所見(%)</b>						
	輸血の既往あり	10.3	14.3(5/35)	16.7(3/18)	15.4(8/52)	10.0
	歯の著明不良あり	31.0	56.8	63.2	43.6	60.0
	注射痕あり	0.0	35.1	47.4	21.8	33.3
	入れ墨あり	24.1	35.1	52.6	0.0	100.0
	指つめあり	0.0	8.1	15.8	1.8	16.7
	根性焼きあり	27.6	32.4	26.3	21.8	43.3
	自傷痕あり	6.9	16.2	10.5	12.7	10.0

**表8【薬物依存症回復支援施設入所者】の注射経験、入れ墨と注射行動・性行動**

	これまでに		これまでに注射経験あり		入れ墨	
	注射経験なし	1年間にはなし	1年間にもあり	なし	あり	
	29[34.1]	37[43.5]	19[22.4]	55[64.7]	30[35.3]	
<b>これまでに (%)</b>						
注射経験あり	0.0	100	100	60.0	76.7	
シリンジ*共用経験あり	0.0	69.4(25/36)	78.9	35.2(19/54)	70.0	
針の共用経験あり	0.0	60.0(21/35)	81.8	32.1(17/53)	56.7	
注射経験の注射回数						
なし	100.0	0.0	0.0	40.0	23.3	
1~49回	0.0	27.0(10/37)	21.1	21.8	6.7	
50~99回	0.0	10.8(4/37)	5.3	3.6	10.0	
100回以上	0.0	62.2(23/37)	73.7	34.5	60.0	
<b>最近1年間で (%)</b>						
注射経験あり	0.0	0.0	100.0	16.4	33.3	
シリンジ*共用経験	0.0	0.0	31.6	0.0	20.0	
針の共用経験	0.0	0.0	26.3	0.0	16.7	
注射経験の注射回数						
なし	100.0	100.0	0.0	83.6	66.7	
1~49回			78.9	12.7	26.7	
50~99回			5.3	1.8	0.0	
100回以上			15.8	1.8	6.7	
<b>これまでに「あぶり」の経験あり (%)</b>						
	34.5	59.5	84.2	60.0	50.0	
<b>この1年間で「あぶり」の経験あり (%)</b>						
	13.8	8.3(3/36)	47.4	20.0	17.2(5/29)	
<b>この1年間でどちらが多いか? (%)</b>						
注射	0.0	0.0	73.7	9.1	30.0	
「あぶり」	13.8	10.8	21.1	16.4	10.0	
同程度	0.0	0.0	5.3	1.8	0.0	
どちらもなし	86.2	89.2	0.0	72.7	60.0	
<b>「風俗」での性接触あり (最近1年間) (%)</b>						
なし	72.4	75.0(27/36)	57.6	66.7(36/54)	76.7	
あり(常にコンドーム+)	17.2	13.9(5/36)	26.3	20.4(11/54)	13.3	
あり(コンドームーのこともあり)	10.3	11.1(4/36)	15.8	13.0(7/54)	10.0	
<b>「風俗」以外での不特定多数と性接触あり (最近1年間) (%)</b>						
なし	69.0	83.3(30/36)	68.4	72.2(39/54)	80.0	
あり(常にコンドーム+)	6.9	8.3(3/36)	15.8	13.0(7/54)	3.3	
あり(コンドームーのこともあり)	24.1	8.3(3/36)	15.8	14.8(8/54)	16.7	
<b>国内で外国人との性接触あり (最近1年間) (%)</b>						
なし	93.1	97.3	84.2	92.7	93.3	
あり(常にコンドーム+)	0.0	2.7	15.8	5.5	3.3	
あり(コンドームーのこともあり)	6.9	0.0	0.0	1.8	3.3	
性接触ありの場合の相手						
「風俗」で	0.0	0.0	66.7	25.0	50.0	
「風俗」以外で	0.0	100.0	33.3	50.0	0.0	
両方で	100.0	0.0	0.0	25.0	50.0	
<b>海外渡航歴のある者 (最近1年間) (%)</b>						
	0.0	5.4	0.0	1.8	3.3	
上記のうち						
渡航先で薬物使用のあった者		0.0		0.0	0.0	
渡航先で性交渉のあった者		100.0		100.0	100.0	

これまでの推移(1)

①精神科医療施設における覚せい剤乱用・依存者調査(実人数) (複数回の者は、初回をカウント)

	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	
対象者数	39	41	47	162	270	316	340	362	291	313	311	302	309	228	211	108	112	81	90	89	76	89	
年齢						32.9	33.5	34.5	34.2	35.9	35.1	35.9	36.4	37.1	37.1	37.6	38.0	39.6	39.7	38.4	39.2	43.5	
HIV Ab +	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0.3	0	0.3	0	0	0	1.9	0	0	1.1	2.2	5.3	0	
HCV Ab +	53.8 21/39	65.1 28/43	43.6 24/55	46.1 82/178	43.6 127/291	53 165/317	43.2 153/354	42 153/364	44.7 140/313	40.5 128/316	40.1 121/301	37.1 112/302	35 108/309	37.6 85/226	23.6 50/212	42.1 45/107	33.6 38/113	44.6 33/74	38 35/92	26.9 25/93	18.2 14/77	34.4 31/90	
HBs Ag +	2.6 1/39	2.3 1/43	0 0/60	1.7 3/181	2.4 7/290	1.9 6/318	3.4 12/355	2.2 8/365	0.3 1/313	2.5 8/317	2.3 7/302	1.7 5/302	1.6 5/309	0.9 2/226	9.4 20/212	0.9 1/107	2.7 3/113	1.4 1/74	0 0/92	1.1 1/93	1.3 1/77	0 0/91	
HBs Ab +	25.8 10/39	25.6 11/43	10.8 4/37	13 18/138	8 20/250	11.5 10/87	12.2 14/115	3.8 10/262	3.9 4/103	2.2 2/93	2.6 3/116	1 1/105	2.3 3/132	2.9 3/104	2.6 2/76	2.9 2/68	0 0/67	0 0/49	0 0/68	5.7 3/53	2.6 1/38	3.4 2/59	
HBc Ab +				16.7 1/6	8.4 5/53	18 12/61	5.8 6/104	0 0/82	4.9 4/81	0 0/60	2.2 0/4	0 1/45	0 0/6	0 0/83	0 0/55	2.0 1/49	1.6 1/81	0.0 0/49	0.0 0/63	10.5 2/19	8.3 2/24	0 0/38	
% Needle Use (lifetime)	92.1 35/38	95.3 41/43	93.3 56/60	98 50/51	89.9 134/149	92 127/138	86.7 156/180	94.9 149/157	66.9 83/124	77.7 94/121	82.3 121/147	81.5 101/124	73.5 121/166	86.4 108/125	76.9 83/108	79.3 69/87	80 80/100	77.8 56/72	68.3 63/92	83.5 66/79	71.8 51/71	78.5 62/79	
% Needle Use (past year)		50 5月10日	70 42/60	88.2 45/51	87.6 88/145	88.1 94/138	71.1 128/180	84.7 133/157	58.1 72/124	62 75/121	61.8 89/144	59.3 73/123	53.9 89/165	56.5 70/124	49.5 53/107	48.3 42/87	51 51/100	57.7 41/71	37.8 34/90	60.8 48/79	50.7 34/67	50.6 40/79	
% Needle Sharing (lifetime)	84.2 32/38	88.4 38/43	67.9 36/53	97.2 35/36	81.3 109/134	78.9 101/128	58.9 99/168	61.8 87/157	48 59/123	55.4 67/121	63.4 85/134	62.3 71/114	47.8 76/159	67.2 84/125	60 63/105	65.1 56/86	60.2 59/98	64.2 43/67	58.1 50/86	64 48/75	50.7 34/67	59 46/78	
% Needle Sharing (past year)		40 4月10日	32.7 17/52	52.9 18/34	45.8 60/131	68.1 94/138	37.3 62/166	37.6 59/157	35 43/123	30.6 37/121	28.5 41/144	25.9 29/112	17 27/159	23.4 19/124	19.2 20/104	16.3 14/86	14.4 14/97	14.5 9/62	14.8 13/88	31.6 24/76	16.9 11/65	16.5 13/79	
「あぶり」の経験+ (lifetime)						30.3 47/155	53.4 93/174	59.9 94/157	59.8 74/124	71.1 86/121	65.5 97/148	63.9 78/122	63.4 104/164	67.2 84/125	68.9 73/106	64.4 56/87	73.5 72/98	70.8 51/72	70.9 61/86	77.2 61/79	78.9 56/71	87.5 70/80	
「あぶり」の経験+ (past year)						20.8 32/154	48 84/175	45.2 71/157	61.1 66/108	56.2 68/121	55.4 82/148	53.3 65/122	57.4 95/164	57.6 72/125	52.4 55/105	48.3 42/87	59.8 59/99	55.7 39/70	59.6 53/89	58.2 46/79	53.5 38/71	57.5 46/80	
注射か「あぶり」か (past year)																							
注射「あぶり」同程度どちらもなし						63.2 9	49.2 28.5	68.2 16.6	40.7 41.7	44.2 35.8	40.3 35.4	41.9 36.8	38.9 38.9	29 40.3	30.8 40.4	37.9 42.5	36 37	37.3 41.8	17.8 47.8	42.1 35.5	38.8 40.3	35.4 41.8	
n						1.3 26.5	8.4 14	7.6 6.4	10.2 7.4	8.3 11.7	11.8 12.5	6.8 14.5	9.3 13	9.7 20.2	5.8 23.1	1.1 18.4	5 22	1.5 19.4	7.8 26.7	9.2 13.2	3 20.9	6.3 16.5	
調査施設数	関東1	関東1 関西1	関東2 関西1	全国6	全国7	全国6	全国6	全国7	全国7	全国6	全国6	全国6	全国6	全国6	全国6	全国6	全国5	全国4	全国4	全国4	全国5	全国5	全国5

これまでの推移(2)

②薬物依存症回復支援施設入所者中の覚せい剤乱用・依存者(実数) 複数回人間は初回をカウント

	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
対象者数	4	9	11	33	35	18	37	42	43	26	38	26	48	24	37	39	32	57	47	41
年齢				29.7	31.8	32.6	32.9	34	33.6	35.2	37.5	36.3	37.0	40.1	38.9	39.1	40.5	39.1	39.5	41.5
HIV Ab+	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.3	0
																			1/44	0/40
HCV Ab+	25	44.4	9.1	53	48.6	38.9	40.5	31.0	32.6	23.1	26.3	26.9	29.2	37.5	29.7	39.5	50.0	33.3	37.8	40
	1/4	4/9	1/11	7/32	17/35	7/18	15/37	13/42	15/43	6/26	10/38	7/26				15/38	14/28	19/57	17/45	16/40
HBs Ag+	0	0	0	0	0	0	0	2.4	0	0	2.6	0	0	0	2.7	7.9	0	0	0	0
	0/4	0/8	0/11	0/33	0/35	0/18	0/37	1/41	0/43	0/26	1/38	0/26				3/38	0/28	0/57	0/42	0/40
HBs Ab+		0	10	12.1	11.4	5.6	12.5	10.3	15.4	18.8	14.7	11.5	10.4	12.5	8.1	7.9	3.7	7.1	7.3	7.7
		0/8	1/10	4/33	4/35	1/18	3/24	3/29	7/43	3/16	5/34	3/26				3/38	1/28	4/56	3/41	3/39
HBc Ab+			10	12.5	14.3	11.1	12.5	17.2	23.1	6.3	11.8	11.5	16.7	16.7	16.2	18.4	11.1	3.6	4.9	7.7
			1/10	4/32	5/35	2/18	3/24	5/29	10/43	1/16	4/34	3/26				7/38	3/28	2/56	2/41	3/39
% Needle Use (lifetime)	100	83.3	90.9	75.8	88.6	88.9	81.8	81	86	88.5	92.1	92.3	89.6	91.7	89.2	84.6	84.4	87.7	93.6	95.1
	4/4	5/6	10/11	25/33	31/35	16/18	30/37	34/42	37/43	23/26	35/38	24/26								
% Needle Use (past year)	75	50	72.7	42.4	65.7	38.9	45.9	40.5	34.9	19.2	28.9	42.3	14.6	12.5	29.7	38.5	21.9	31.6	40.4	39
	3/4	3/6	8/11	14/33	23/35	7/18	17/37	17/42	15/43	5/26	11/38	11/26								
% Needle Sharing (lifetime)	50	66.7	81.8	69.7	79.4	72.2	73	66.7	67.4	65.4	81.8	76	75	87.5	78.4	66.7	71.9	71.9	78.3	65.9
	2/4	4/6	9/11	23/33	27/34	13/18	27/37	28/42	29/43	17/26	30/37	19/25								
% Needle Sharing (past year)	25	33.3	54.5	36.4	54.4	22.2	32.4	16.7	20.9	3.8	18.4	23.1	8.3	12.5	16.2	12.8	15.6	17.5	27.1	9.8
	1/4	2/6	6/11	12/33	19/35	4/18	12/37	7/42	9/43	1/26	7/38	6/26								
「あぶり」の経験+(lifetime)				71	60	72.2	56.8	64.3	55.8	61.5	60.5	52	64.6	66.7	75.7	74.4	56.3	54.4	63.8	73.2
				22/31	21/35	13/18	21/37	27/42	24/43	16/26	23/38	13/25								
「あぶり」の経験+(past year)				37.5	34.3	38.9	35.1	14.6	11.6	3.8	10.5	15.4	12.5	8.3	8.3	20.5	3.1	21.1	23.9	29.3
				12/32	12/35	7/18	13/37	6/41	5/43	1/26	4/38	4/26			3/36					
注射か「あぶり」か(past year) 注射				34.4	57.1	22.2	43.2	41.5	34.9	19.2	28.9	34.6	18.8	8.3	30.6	35.9	21.9	26.3	34.8	29.3
				18.8	17.1	27.8	13.5	9.7	11.6	3.8	2.6	11.5	4.2	0	2.8	7.7	0	8.8	10.8	17.1
「あぶり」同程度				6.3	5.1	5.6	0	0	0	0	2.6	0	0	4.2	0	0	0	0	2.2	2.4
どちらもなし				40.6	20	33.3	43.2	48.8	53.5	76.9	65.8	53.8	77.1	87.5	66.7	56.4	78.1	64.9	52.2	51.2
n	32	35	18	37	41	43	26	38	26	48	24	36	39	32	57	46	41			
調査施設数	全国1	全国1	全国2	全国2	全国2	全国2	全国2	全国2	全国3	全国3	全国4	全国3	全国5	全国5	全国7	全国6	全国6	全国6	全国6	全国5



国連へのデータ

初回対象者のみデータ

国連からの要請	この調査で答えられること	2014年
この1年間での注射薬物使用者(A)	分母は調べた患者数	82/328
過去1ヶ月間での注射薬物使用者(B)	分母は調べた患者数	13/125
Aのうち、必ず清潔な注射器具を使った者の割合		14/82
Bのうち、最も最近の注射で、清潔な注射器具を使ったものの割合		9/12
Aのうち、必ずコンドームを使った者の割合	Aのうちで1年間に性交渉のあった者	54/82
Bのうち、最も最近の性交渉で、コンドームを使った者の割合	Bのうちで1年間に性交渉のあった者	5/13

国連からの要請	この調査で答えられること	2014年
最も最近のセックスでコンドームを使用した注射薬物使用者の割合	(分母)過去1ヶ月に注射薬物使用と性行為を行った者	2/2
最も最近の注射で清潔な器具を使用した注射薬物使用者の割合	(分母)過去1ヶ月に注射薬物使用を行った者 性別 年齢別 (<25, >=25)	全員25歳以上、 男性9人、女性3人 9/12
過去1年間にHIV検査を受け、その結果を知っている注射薬物使用者の割合	性別 年齢別(<25, >=25)	陽性者4人中3人
HIVとともに生きている注射薬物使用者の割合		・2013年の「薬物使用に関する全国住民調査」による覚せい剤紹介経験者推計値は、519,721人

平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）  
HIV 感染症の動向と影響及び政策のモニタリングに関する研究  
分担研究報告書

外国人薬物使用者等の HIV 感染と行動のモニタリングに関する研究

分担研究者：中村亮介（東京都立松沢病院）

**研究要旨** ①精神科に入院となった外国人患者について薬物乱用の有無や注射器・注射針の使用実態、性行動等 HIV 感染にかかわるハイリスク行動を調査することによって HIV 対策の基礎資料に供する事を目的とした。②本研究では首都圏に位置する公立精神科病院に薬物使用等で入院となった外国人患者を対象として、対象者の同意の下に調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査、ないしは診療録からの転記調査を実施した。③2014 年の調査においては HIV 感染者はみられなかった。④女性患者では昨年は風俗業に従事する物が減少の傾向を示したが本年は昨年と大きな変化は無かった。⑤とくに男性患者において一般的には社会的に引き籠りを示す傾向が強い統合失調症患者の割合が増えている一方で奔放な性行動をとる一群は増加を示しており、本年は「脱法ハーブ」の使用が増加を示した。

薬物乱用者は増加の傾向を示しており薬物乱用者間での HIV 感染拡大の一因として懸念されるところであり、今後とも外国人症例の調査が必要と考えられた。

**A. 目的**

精神科病院に入院となった外国人患者について薬物乱用の有無や注射器・注射針の使用実態、性行動等 HIV 感染に関わるハイリスク行動を調査することによって HIV 対策の基礎資料とする事を目的とした。

**B. 研究方法**

研究では首都圏に位置する公立精神科病院に薬物使用等で入院となった外国人患者を対象として、同意を与えることが対象者の同意の下に調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査、ないしは診療録からの転記調査を実施した。

**C. 目標**

院内倫理規定に則り書面にて同意の得られる症例を対象に 100 例／年程度までは対応できる体制で臨んだ。

**D. 研究結果と考察**

本年では、32 カ国 74 名（平均年齢 38.0 ± 10.6 歳）の入院があった。男女の内訳は男性 41 名（36.0 ± 10.0 歳）女性 33 名（40.0 ± 12.0 歳）であった。

入院患者を出身国別にみると、おおよそ例年の傾向を引き継いだ形となっているが出身国の多様化が見られている。（表 1）

同時に調査を行った HBV、HCV、梅毒の感染については「B 型肝炎ウイルスのキャリア」が複数例認められた。

（表 2）

外国人患者の ICD-10 分類による内訳を（表 3）に示す。例年通り F2（統合失調症圏）の症例が最多となっている。

また女性患者のうち「風俗業」に従事していた者の比率はここ数年持続して上昇の傾向を示していたが昨年以降は若干の減少あるいは頭打ちといった印象である。(表4)

74名の症例のうち、薬物乱用者は15名確認された。

「静脈注射使用歴を有する患者」は昨年までは減少の傾向が見られていたが、本年の調査では6名の症例が静注による薬物使用を経験しており、これは全入院外国人患者の8.1%をも占めるものとなっている。単純に減少の傾向が続くものではない事が示された。

本研究の対象となる「首都圏公立精神科病院に入院となった外国人患者」には常に一定以上(5%以上)の割合で薬物乱用者が含まれていたが、これが大きく増加を示した一昨年(20%程度)からの傾向を引き継いで、本年は74名中15名(20.3%)の薬物乱用者が認められた。男性に限れば41名中11名(26.8%)女性においても33名中4名(12.1%)と高い割合を占めている。一昨年以降、「男性で20%強・女性で10%強」といった比率が続いている。

覚醒剤は性交為時の快感を増強させる目的で用いられる事が多いのは周知の事実であり、薬物乱用者ことに覚醒剤乱用者においては性交渉においてより強い刺激を求める傾向にあると推認される事から性感染症への罹患リスクが高いものと考えられ、HIV拡散の高リスク群として外国人患者の動向に注目すべきものとして今後も継続した実態把握が必要である。

#### E. まとめ

①首都圏精神科病院に入院となった外国人患者について薬物乱用の有無や注射器・注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査した。

②文書による同意の得られた74例に対して調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査、ないしは診療録からの転記調査を実施した。

③本年ではHIV感染症者が認められなかった。

④また本年は例年に比して患者総数が増加を示しながら(昨年比約40%増)、さらに薬物乱用者の増加が目立っており、薬物乱用者間でのHIV感染拡大が懸念されるところであり、今後とも外国人症例の調査が必要と考えられた。

F. 発表論文 なし

G. 学会発表 なし

H. 知的所有権の取得状況 なし

表1 2014年における外国人入院患者の国籍 [単位：人数]

国籍	男	女	合計
中国	6	7	13
韓国	3	5	8
フィリピン	0	5	5
アメリカ合衆国	4	0	4
フランス	4	0	4
アイルランド	3	0	3
ナイジェリア	3	0	3
台湾	0	3	3
イギリス	2	0	2
オーストラリア	2	0	2
ドイツ	1	1	2
北朝鮮	0	2	2
タイ	0	2	2
ベトナム	0	2	2
アフガニスタン	1	0	1
エジプト	1	0	1
ガーナ	1	0	1
カナダ	1	0	1
コートジボワール	1	0	1
シンガポール	1	0	1
スロバキア	1	0	1
ブラジル	1	0	1
ニュージーランド	1	0	1
ネパール	1	0	1
バングラデシュ	1	0	1
ブラジル	1	0	1
モロッコ	1	0	1
インド	0	1	1
チリ	0	1	1
ノルウェー	0	1	1
メキシコ	0	1	1
モンゴル	0	1	1
合計	41	33	74